秋葉原無差別殺傷事件を受け、緊急発巻！

子どもの人権を考えるシリーズ

傷つけられる思春期

―子どもとの会話を取り戻すために―

17歳の少年

中学まで学業優秀
でスポーツも万能
名門進学校に進むが
自分の実力が特別な
ものでないとわかり
不登校気味となる
期待に応えられない
ことから苦しみ母親
を刺殺…

16歳の少年

父親が毎晩、学習
指導を行う
できないと殴るなど
暴力を繰り返す
恨みから父親を殺害
しようと放火
母、弟、妹が死亡…

25歳の青年

名門進学高校に進
みながら親の期待に
応えられずコンプレ
ックスを持つ
思春期の挫折を引き
ずり無差別殺傷事件
を起す

25分

ビデオ　69,300円（本体66,000円）〔C#7499〕

東映株式会社　教育映像部
〒104-8108　東京都中央区銀座3-2-17
http://www.toei.co.jp/edu/

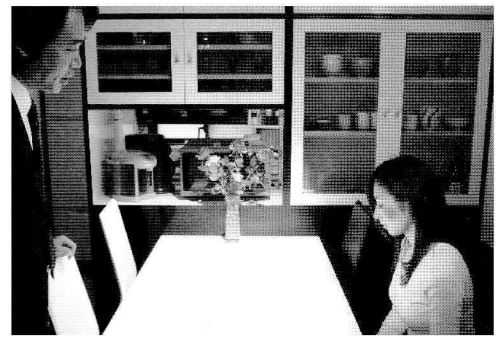
企画趣旨

2008年6月に発生した「秋葉原無差別殺傷事件」は改めて、親、周囲の大人たちと思春期の子どもとの関わり方に大きな警鐘を鳴らしました。この数年、思春期問題を背景とする事件が連続して起きています。「辛かったねぇ」「苦しかったねぇ」といった愛情のある声かけがあれば、抑止できたかもしれない、これらの事件。この作品は実際の事例をもとに、思春期の子どもと向き合うために何が求められているかを提言するものです。

内容

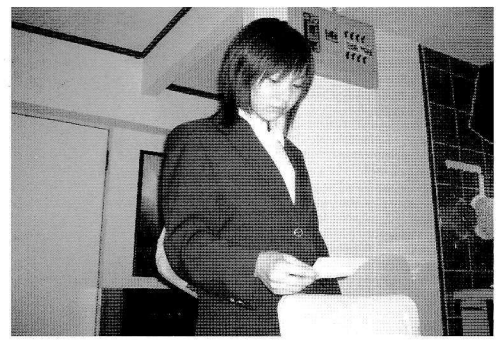
事例1　「不登校をなじられ暴力へ」

博一（16）は中学まで成績優秀でスポーツも万能。しかし、名門進学校に入学してから成績が落ち、不登校気味になる。父、将夫と母、弘美は、博一を中学の頃のように叱咤するが、博一は部屋にひきこもりがちになり、学校へ行かせようとする弘美に暴力をふるう。それは暴力を咎めた将夫にも。博一の暴力で初めて教師に相談。スクールカウンセラーのアドバイスをもらい、弘美は苦しんでいた博一の気持ちを推し量れなかった自分たちの子育てのあり方を反省する。



事例2　「非行行動を止めたもの」

優花（15）は朝帰り・外泊を繰り返していた。だが、それを咎めない母、咲子。咲子は離婚して、仕事にのめりこみ、優花を煩わしいと感じていた。優花は両親の離婚は自分が原因なのではという不安を抱え、母親に愛されたいと思いながら、それがうまく表現できない。優花が警察に補導され、担任と話し合った咲子は、日常のさりげない挨拶からやり直そうとする。優花もその姿勢に心を溶かしていった…。



脚本・監督・・・秀嶋賢人　　監修協力・・・東京家庭教育研究所

企画・制作・・・フォア・ザ・ワン・プロジェクト

2008年作品

東映株式会社　教育映像部

関東営業推進室　東京都中央区銀座3-2-17　〒104-8108　☎03－3535－3631
関西営業推進室　大阪市北区梅田1-12-6　〒530-0001　☎06－6345－9026
広島出張所　広島市中区八丁堀16-10　〒730-0013　☎082－511－2066
福岡出張所　福岡市博多区中洲4-3-18　〒810-0801　☎092－262－3101

●お買い上げは……

北辰映像株式会社
〒350-0461　埼玉県入間郡毛呂山町中央 3-32-3
TEL:049-298-5792　FAX:049-298-5793
E-mail : co@hokushineizo.com